

# 横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果（令和7年5月～10月）

当所では、横浜市蚊媒介感染症サーベイランス事業の一環として、市内公園において蚊成虫生息状況調査を行っています。蚊媒介感染症は、デング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱、ウエストナイル熱、日本脳炎、マラリアなどがあり、それぞれ主要媒介蚊が異なります(表1)。そのため、感染症発生時対策として、平常時から地域特有の蚊成虫生息状況を把握しておく必要があります。

令和7年の蚊成虫捕獲調査は、市内の蚊種類相の把握を目的としたライトトラップ法と、ヤブカ属の捕獲を目的とした人<sup>ひと</sup>囿法により行いました。ライトトラップ法は、ドライアイス<sup>ひとおとり</sup>を誘引剤として用いた電池式ライトトラップ(CDC型:写真1)を16公園(17か所)に設置、捕虫網を用いた人<sup>ひと</sup>囿法は、山下公園で行いました(図1、表2)。また、蚊類の捕獲は、(公社)神奈川県ペストコントロール協会に委託しました。

捕獲された蚊類は、衛生研究所に搬入され、調査場所ごとに種類を同定し、雌成虫については、オルソフラビウイルス属(デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルス)及びチクングニアウイルスの遺伝子検査を実施しました。ここでは、これらの調査結果について報告します。

表1 主な蚊媒介感染症

疾患名	国内生息の 主な媒介蚊	主な感染環
デング熱		ヒト→蚊→ヒト
ジカウイルス感染症	ヒトスジシマカ	ヒト→蚊→ヒト
チクングニア熱		ヒト→蚊→ヒト
ウエストナイル熱	アカイエカ群	トリ→蚊→ヒト
日本脳炎	コガタアカイエカ	ブタ→蚊→ヒト
マラリア	ハマダラカ属	ヒト→蚊→ヒト

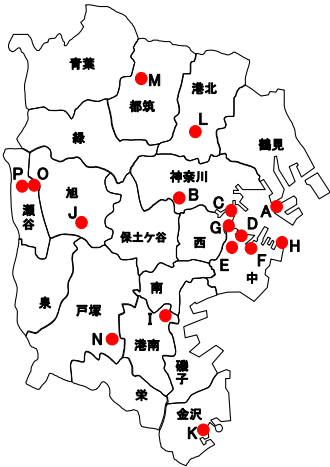


図1 蚊成虫捕獲調査地点

表2 蚊成虫捕獲調査地点

区	調査地点	区	調査地点	区	調査地点
鶴見	大黒ふ頭中央公園(A)	中	新港中央広場(G)	都筑	都筑中央公園(M)
神奈川	三ツ沢公園(B)		シンボルタワー(H)	戸塚	舞岡公園(N)
西	臨港パーク(C)*1	港南	久良岐公園(I)	瀬谷	瀬谷市民の森(O)
中	山下公園(D)*2	旭	こども自然公園(J)		細谷戸公園(P)
	横浜公園(E)	金沢	海の公園(K)		
	港の見える丘公園(F)	港北	新横浜駅前公園(L)		

\*1:2 か所(北・南)実施  
\*2:ライトトラップ法と人囿法を実施

## 〈ライトトラップ法による蚊成虫捕獲調査〉

ライトトラップ法による蚊成虫捕獲調査を16公園(17か所)、各12回延べ204回実施し、結果を表3に示しました。捕獲された蚊成虫の雌雄合計は、8属14種7,383個体でした。最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ5,034個体(68.2%)でした(写真2)。次いで、アカイエカ群が1,964個体(26.6%)、キンバラナガハシカが166個体(2.2%)、ヤマトヤブカが76個体(1.0%)捕獲されました。

表3 ライトトラップ法による蚊の種類と総捕獲数(17か所、各12回:延べ204回)

属	種	捕獲数			
		雌	雄	合計	(%)
イエカ属	アカイエカ群*3	1,937	27	1,964	(26.6)
	コガタアカイエカ	26	1	27	(0.4)
	カラツイエカ	33	0	33	(0.4)
	ミナミハマダライエカ	1	0	1	
	クシヒゲカ亜属	8	1	9	
カクイカ属	トラフカクイカ	2	0	2	
ヤブカ属	ヒトスジシマカ	4,391	643	5,034	(68.2)
	ヤマトヤブカ	75	1	76	(1.0)
	コガタキンイロヤブカ	1	0	1	
クロヤブカ属	オオクロヤブカ	32	0	32	(0.4)
ハマダラカ属	シナハマダラカ	1	0	1	
ナガハシカ属	キンバラナガハシカ	142	24	166	(2.2)
ナガスネカ属	ハマダラナガスネカ	8	0	8	
チビカ属	フタクロホシチビカ	0	7	7	
不明(破損を含む)		19	3	22	
合 計		6,676	707	7,383	

\*3:アカイエカ群には、アカイエカ、チカイエカ、ネツタイエカの3亜種が含まれる。3亜種は実体顕微鏡下での外部形態による同定が容易ではないため、多くの調査で、アカイエカ群として扱われている。



写真1 CDC型ライトトラップ



写真2 ヒトスジシマカ雌成虫

調査地点別の蚊捕獲数を図2に示しました。調査期間中最も多く捕獲されたのは、臨港パーク1(北)の1,160個体で、次いで、細谷戸公園が842個体、新横浜駅前公園が634個体でした。種類別にみると、ヒトスジシマカは、臨港パーク1(北)で1,018個体と最も多く、次いで細谷戸公園が755個体でした。アカイエカ群は、大黒ふ頭中央公園で356個体と最も多く、次いでシンボルタワーが322個体でした。

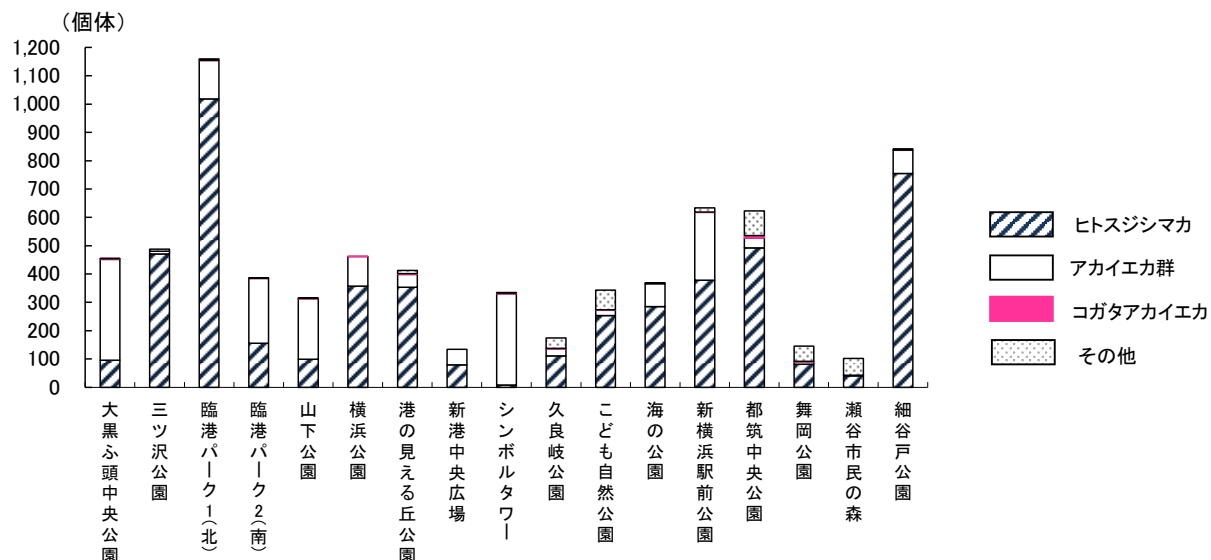


図2 調査地点別の蚊捕獲数

### ひとひとり 〈人囃法によるヒトスジシマカ成虫捕獲調査: 山下公園〉

山下公園3定点において(図3)、人囃法(写真3)による蚊成虫捕獲調査を各12回(延べ36回)実施しました。捕獲されたヒトスジシマカは、雌成虫が64個体、雄成虫が35個体、合計99個体でした。

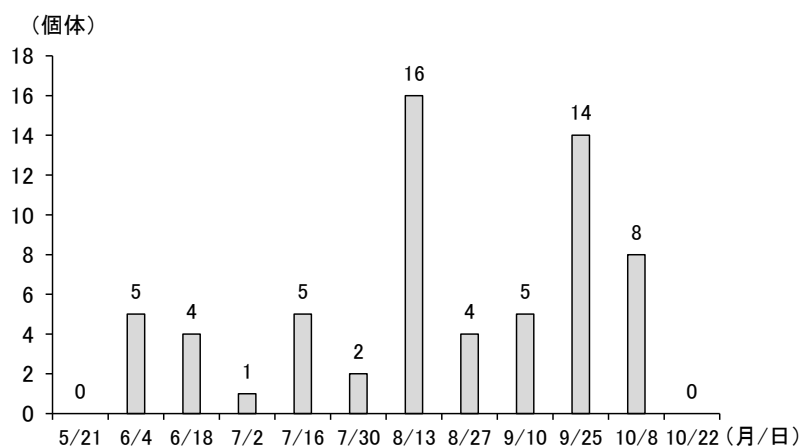


ひとひとり  
図3 人囃法の調査定点

### ひとひとり 〈人囃法によるヒトスジシマカ雌成虫の消長: 山下公園〉

人囃法によって捕獲されたヒトスジシマカ雌成虫の消長(3定点の合計捕獲数)を図4に示しました。

ヒトスジシマカ雌成虫は、初回の5月21日は捕獲されず、7月30日までは1～5個体と少数でした。8月13日は16個体と最も多く、8月27日は4個体、9月10日は5個体と減少しました。さらに、9月25日は14個体、10月8日は8個体と再増加しましたが、最終回の10月22日は捕獲されませんでした。



ひとひとり  
図4 人囃法によるヒトスジシマカ雌成虫の消長(山下公園)



ひとひとり  
写真3 人囃法

### 〈ウイルス検査〉

ライトトラップ法によって捕獲された雌成虫6,676個体、人囃法によって捕獲されたヒトスジシマカ雌成虫64個体について、オルソフラビウイルス属(デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルス)及びチクングニアウイルスの遺伝子検査を実施し、全て不検出でした。

なお、詳細は、衛生研究所ウェブページに掲載されています。

横浜市衛生研究所ウェブページ: 感染症発生状況資料集>病原体情報>横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/byogentai/inf-c-kabaikai.html>

【 微生物検査研究課 医動物担当 ウイルス担当 】